

## 鏡川流域の洪水予測モデルの構築

Development of Flood Forecasting Model for the Kagami River Basin

刈谷響

Hibiki Kariya

近年の気候変動による豪雨の増加により、氾濫危険水位を超過した河川数は増加傾向になっている。1 級河川については国が降雨流出氾濫モデル (Rainfall-Runoff-Inundation model ; RRI) を用いて「水害リスクラインデータ」により洪水予報を提供する [1]。本研究では 2 級河川である鏡川流域に RRI を活用し洪水予測モデルを作成することを目的とする。

洪水リスクライン用に設定された各パラメータについて、洪水リスクラインの推奨範囲内で値を変化させ流出解析を行い、観測と比較することで、水防災の観点で適した RRI モデルのパラメータ設定を決定する [2]。土地被覆は国土数値情報の土地利用細分メッシュ [3] を用い、斜面粗度を分類する。また、高知県水防情報システムから雨量、流量、水位データを取得し [4]、水位と流量の予測データと観測データを比較する。DEM(Digital Elevation Map) データは HydroSHEDS(USGS) から取得し、落水線の構築に用いる [5]。また河道は上流域メッシュ数を用いて決定する。

発表では洪水流量と水位の再現性の評価及び高解像度 DEM の利用方法について議論する。

## 文献

[1] 国土交通省,2025, <https://frl.river.go.jp/SelectAreaTopView?ver=1.4.4>

[2]F.Osamu,N.Ryosuke,I.Shuji,Y.Masahumi,S.Takahiro,2024, 河川技術論文集, 第 30 巻,531-536.

[3] 国土数値情報ダウンロードサイト, 土地利用細分メッシュデータ,  
<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-L03-b.html>

[4] 高知県水防情報,<https://suibo-kouho.suibou.pref.kochi.lg.jp/>

[5]HydroSHEDS, <https://www.hydrosheds.org/products>